

被災した障がい者福祉施設が集まって作りしました 三陸復興ギフト（三陸菓子の詰め合わせ）



「どん菓子」はアーモンドココア・アーモンドきなこ・アーモンドの3種類



「牛」たかたのゆめ煎餅は、復興ブランド米「たかたのゆめ」を使用



ボールペン＆海図メモ帳セット



さまざまなクッキーやマフィンを詰め合わせました。クッキーは内陸部施設の「江刺産りんご乾燥チップス」を練り込んでいます

沿

岸部障がい者就労支援事業所利用者の工賃向上と生活の安定化を支援する障がい者就労支援振興センターは、事業所の抱える課題（広告、営業、販売促進、商品開発、販路拡大、技術指導など）を解決するため、多角的にバックアップを続けています。

しかし、昨今の経済状況と震災の被害により、沿岸被災地の事業所は軒並み受注が途絶えがちで、仕事が激減しました。

今回、振興センターが企画した「三陸復興ギフト」は、東日本大震災で被災した事業所を支援しようと、沿岸部の施設が製作した人気のクッキーを、「おすすめ菓子」として詰め合わせギフトにしたものです。

参加事業所は「社会福祉法人翔友 かまいしワーク・ステーション」と「非営利型一般社団法人@かたつむり」の2事業所です。クッキーは盛岡市の株式会社タルトタタンが監修。パッケージの「三陸復興」の題字は、書家の金澤翔子氏が作成しました。

復

多くの人たちの思いが込められた「三陸復興ギフト」は、今年2月から復興応援商品として、岩手県庁生活協同組合、盛岡市歴史文化会館のほか、イオンスーパーセンター釜石などで販売しています。

「三陸復興ギフト」のプロデュースを手がけた県社協障がい者就労支援センターの小笠原トモ子コーディネーターは「本商品のお買上げが三陸の復興を後押しする力になります。いわて国体でも販売します。利用者の工賃アップの底上げになるよう、これからも商品開発や商品の共同化などで支援を続けます」と強調。

興のシンボルとして全国に感動と感謝を発信する「2016希望郷いわて国体」も間近です。

今年度からは「ボールペン5本セット」（税込み972円）と「ボールペン＆海図メモ帳セット」（税込み378円）も新たに販売を始めました。これらの商品は作業工程の一部を社会福祉法人陸会遠野コーニーが担当しています。

4種類の味

世界遺産をイメージした商品「橋野鉄鉱山クッキー」



クッキーは利用者と職員が丁寧に仕上げられています。下は山崎将生職業指導員（左）と小岩身知子職業指導員

釜石市鶴住居の福祉作業所かまいしワークステーション（川畑克弘所長）は、市内の世界遺産をイメージした土産品「橋野鉄鉱山クッキー」を商品化。県社会福祉協議会や盛岡市の菓子メーカー「タルトタタン」がレシピ開発に協力しました。

同事業所は東日本大震災で被災しましたが、復旧後に菓子作り部門を設け、マフィンやクッキーを

作っています。クッキーは4枚入り500円（税別）、10枚入り1,000円（同）。商品は一枚一枚手作りで、袋詰めも手作業。利用者と職員計4人が丁寧に仕上げています。

同商品は「三陸復興ギフト」[三陸の菓子詰め合わせ]としてもパッケージ化されています。商品はシープラザ釜石、道の駅仙人峠、橋野鉄鉱山インフォメーションセンター前などで販売しています。



覚書きを披露する菊池（株）ベルジョイス常務執行役員（中央）と長山県共募会長（中央左）

「あったかいわてプロジェクト」しあわせ運ぶお買い物」
株式会社ベルジョイスが
寄付つき飲料を県内店舗で販売

じぶんのまちを良くする活動に

5月30日、岩手県共同募金会の長山洋会長と、株式会社ベルジョイスの菊池甚成常務執行役員は、矢巾町藤沢のビッグハウス矢巾店で「あったかいわてプロジェクト」しあわせ運ぶお買い物」に関する覚書調印式を、サントリーフーズ株式会社森祐二東北支店長立会いのもとに行



寄付つき商品

いました。

対象飲料は、サントリーフーズ株式会社が協力・提供する、熱中症対策飲料「グリーン・ダカラやさしい麦茶」「南アルプス天然水」などの7商品です。

「あったかいわてプロジェクト」は、「募金百貨店プロジェクト」の岩手版です。対象飲料を購入いただく、売上げの一部（1本につき2円）が岩手県共同募金会を通じて、「じぶんのまちを良くする活動」のために寄付され、岩手県内の福祉活動に役立てられます。

「募金百貨店プロジェクト」

全国の共同募金会では企業等から、寄付つき商品・企画を募集する、赤い羽根共同募金「募金百貨店プロジェクト」を実施しています。

同プロジェクト（全国都道府県単位の企画として実施）は、企業等から寄付つき商品・企画を募集し、共同募金会・寄付者・多様な企業等が連携して「じぶんのまちを良くする」募金の百貨店を目指したものです。

寄付者（顧客）に負担はなく、企業は販売促進と社会貢献につながり、それが地域の福祉課題を解決するための財源となります。



【寄贈】 ジャパンゴルフツアー選手会

福祉関係者など70人が出席し
復興支援・福祉車両寄贈式

県内の10市町村社協に寄贈

ジャパンゴルフツアー選手会（宮里優作会長）から、2012年度から震災復興支援

として、選手たちが獲得した賞金の中から1%（およそ3,000万円）をチャリティ金として寄贈しています。

2016年度は、チャリティ金を原資に自動車を購入し、岩手・宮城・福島各県の社会福祉協議会を通じて、それぞれ10の市町社会福祉協議会に寄贈することになりました。車両寄贈は今回で3回目となり、寄贈累計台数は3県合わせて90台に達しています。

6月8日、福祉関係者など70人が出席し、復興支援福祉車両寄贈式が、ふれあいランド岩手で行われました。

寄贈式でジャパンゴルフツアー選手会の宮里優作会長は「車両寄贈は選手会から案が出たことと始まり、復興支援による選手の社会貢献意識も高まっている。車両の寄贈を今後も続けていくだけでなく、プレーを通して皆さんに勇気を与えたい」と挨拶し、岩手県社会福祉協議会の長山洋会長は「少しずつ復興



宮里会長と大内常務（奥州市社協）



寄贈された車両

贈は大変ありがたく、復興支援のため、各地域で有効に活用していきたい」と謝辞を述べました。その後、宮里会長から、県内10市町社会福祉協議会長（常務理事・事務局長）に目録が贈呈されました。寄贈された車両は、各社会福祉協議会で、1人暮らし高齢者の見守りや、仮設住宅の巡回などに活用されます。